

河川や海洋など塩分濃度が様々な水圏環境に棲む
魚の環境適応機構を研究しています

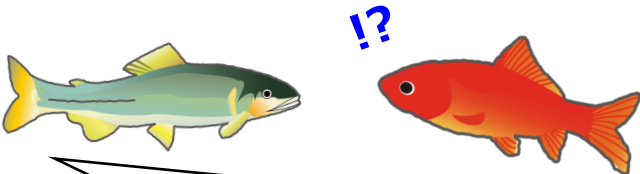
キンギョとアユの塩分耐性

1 僕も広い**海**で泳いでみたいな。
でも、**淡水魚**だから行けないよなあ
アユさん、君も海に行きたくない？



私はこの前まで海にいたからなあ…

2 君、海に行けるの？淡水魚なのに？

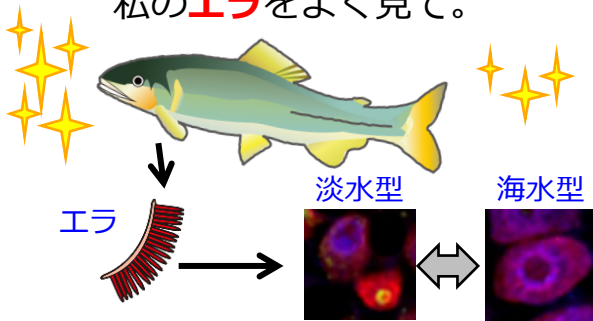


うん。だって、私、**両側回遊魚**だもん。

3 リョウソク
カイユウギョ？



私、アユは川と海を行き来する回遊魚。
私の**エラ**をよく見て。



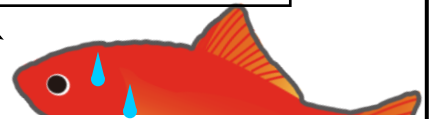
塩類細胞の機能を切り変えることで、
川にも海にも適応できるの。

5 じゃあ、僕にも立派なエラがあるし
早速、海に飛び込んでみようかな！



キンギョさんは海に適応できないよ(笑)
だって、エラの機能を変えられない
狭塩性魚でしょ？

え？キョウエンセイ…って何？

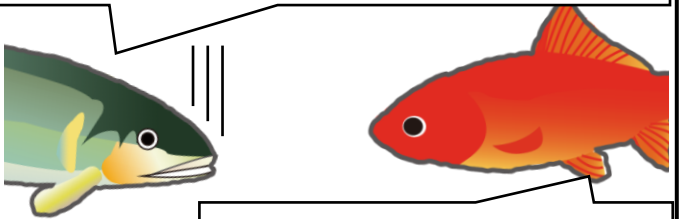


海には行けないけど、河口まで行って
みたら？**汽水は大丈夫**なはずだから…



7 僕は海に行けないってことか…。
海で泳げるアユさんが羨ましいよ！

でも、私は1年しか生きられない…。
長生きできる金魚さんが羨ましい…。



8 そうか。同じ魚でも、
僕たちこんなに違うんだね

水圏環境に生息する魚は、陸上に暮らす私たちには見られない独自の環境適応の仕組みを発達させてきました。私たちは、魚の塩分調節機構、酸・塩基調節機構を明らかにし、その成果を養殖技術への応用や気候変動が与える影響の理解へとつなげ、私たちの生活にも役立てることを目指しています。